

スタンス・マガジン 2月号 2022年1月10日発行発売(隔月奇数月10日発売)

# Stance

MAGAZINE #49



○ 新年特別付録 ○

Stance MAG.  
2022 CAR&GALS / GUYS  
CALENDAR

>>>> HEADLINE 改造車の新定義

## STANCE NEW NEUTRAL

>>>> OTHERS

US EVENT (SEMA SHOW / AUTOFASHION / JCCS) /  
THE FOUNDER パーツ偉人伝 / STANCE FLASH

>>>> COVER CAR

SUBARU BRZ × 326POWER



>>>> HOT TOPICS 2021年のスタンスシーン決定戦

*Stancenation*  
Japan **G** Edition  
YAMAGUCHI  
(Entry Car / Award Car / Exhibitors)

2 2022  
FEB.



# THE FOUNDER

パ  
ー  
ツ

レースで勝てるメイドインジャパン  
PRIDE OF BRIDE

偉  
人  
伝

ブリッド株式会社 代表取締役社長  
高瀬嶺生

どのアフターパーツのジャンルにも山ほどメーカーが乱立し、日夜熾烈な生存競争に明け暮れる中であって、シートの世界には無敵の一強がいる。それが「ブリッド」だ。同社はいかにして生まれ、育ち、不動の地位に就いたのか？ その経緯を同社社長のモノローグ(独白)形式で紡いでいただく。シートひと筋40年。簡単なようで奥深い世界の入口に今、私たちは立っている――。

source : ブリッド 052-689-2611 <http://bride-jp.com> photo : Akio Hirano text : Akio Sato (rsf)



# いざ起業

THE FOUNDER

「中学のときから将来の仕事を決めてまして、工業高校に進んで、ゆくゆくは整備士になるんだと。最終的には自動車屋さんになるんだと。これは自分の人生を通して全然ブレていない。そして、1970年に高校を卒業。ディーラーに入社して整備やいろんな仕事をしながら、『さあ、独立しよう』と思っていた矢先にパッタリ巡り合った人が、デュアルマフラーとかソレックスとか、機能パーツを取り扱っている仕事をしていて。なんか面白そうなのでその会社に寄り道してみようと(笑)。「30歳になったら独立します」という条件付きでディーラーを辞めて、そこで働き始めました。

「いよいよ30歳になり、『具体的にクルマの何をやるか?』って話になったとき、目を付けたのがシートでした。そのころ自動車のシート交換って一般的じゃなかったから、製造している会社もなくて。で、最初は純正シートの延長のようなリクライニングシートから始めたんですけど、ちようどラリーが盛んなころだった



創業当時のブリッドの社屋。当時から自動車用シートの生産を行っていたものの、その売り上げ高は低く、まさに何もなかったところから歴史は始まった。

んです。『じゃあラリーで使えるシートを作ろう』ということで、海外製のシートを参考に作って、市販したのがブリッドのスタート地点ですね。

最も「それでメシが食えたのか?」ってハナシになると、食べるワケがない(笑)。出来たばかりの名無しの権兵衛の会社だし。前の仕事するときのコネを使い、ブローカーみたいなことをして食いつなぐワケですよ。シートはせいぜい年商の1割くらい。何もないとこから始まったんです」

## ブリッドの由来

「英語のスペルはBRIDGEで、正しくは「ブライド」と読みます。ちょうどブランド名を考えていたときに、セイコーから「ハイブリッド」って時計が発売されたんです。それと大好きなステイブ・マックイーン主演の映画「ブリッド」の語感を合わせ、ブリッドの「ット」を「ド」に変えて、ブライドをブリッドと読ませようと。完全な造語ですね。だから、いまだに海外に行くと「ブライド、ブライド」って言われます。ホントはもっと分かりやすいのがいんだらうけど、今さら変えられない(笑)。

外車向けシートのネーミングも一生懸命考えているうちにアタマがパンクしてきちゃって、あるときレクサスをひっくり返して逆から読ませている商品を見つけて、それをヒ



今ではだれでも当たり前のように読んでいるBRIDE (ブリッド) が、映画と時計を参考にした造語だったとは!

ントに『ブリッドを逆から読ませればいいんだ』と。それでED-RB (エディルブ) が誕生しました。これ

## メイドインジャパンへのこだわり

「今の時代、コスト削減のために海外に拠点を移す企業は多いですよ。でも、そこはガマンなんです。一度手を染めると、麻薬と一緒。やめられなくなっちゃう。納期が今までの以上にかかっても、値段が釣り上がっても、クオリティが下がっても、文句言わずに買うしかない。だってもう海外でしか作れないんだから。

その点ブリッドのシートは、完全手作りのメイドインジャパン。我々の職人さんが何年も計算して作ってるんですよ。季節によって材料も変えている。室温は何度かまで計算して作っています。手打ちのソバ屋さんみたいなもんです(笑)。そんなこと、海外でやってくれますか? レース用のシートは、常に安全性が最優先。目に見えないところでも、

も勝手にドイツっぽく読ませようと思っただけ。アメリカの発音だと「エディルブ」になっちゃう。シートの製作に関しても自分の独断と偏見が強いけど、ネーミングも結構自分の独断と偏見で決めてます(笑)」

決して手は抜けないんです。だから自分たちの目の届く範囲で作る。つまり、メイドインジャパンにこだわるんです。ルールも生地も開発も、100%愛知県」



ボンドを付けたウレタンをファイバー製のバックレストに張り、その上から生地をかぶせていく。流れるような一連の作業は、まさに職人芸。

「レース用のシートは、常に安全性が最優先。目に見えないところでも、決して手は抜けないんです。だから、メイドインジャパンにこだわるんです」



「剛性」とは、粘るといふ意味のことを言っている。そうすると、軽くするって発想は出てこないんですよ。軽くすると剛性がなくなっちゃう」

## コロナが追い風。家庭向けに

コロナ禍により急激に伸び始めた家庭用のイス。足の部分が違うだけで、椅子の部分は既存の製品のまま（写真のロッキングチェアのほか、キャスター付きもあり）。つまり、これまで培ってきた「疲れにくい椅子」のノウハウが、新たな客層へと浸透したのだ。



2021年の10月、『がちりマシター!!』ってテレビ番組でブリッドのシートにキャスターをつけたモデルが紹介されて、そこから家庭用がブレイクしています。eスポーツ向けのチェアってことで取り上げられたんですが、今までクルマと関係がなかった人たちに刺さったみたいで。彼らは今までブリッドのことを知らなかった腰の悪い人たちなんですよ。ウチのシートに座ると和らぐっていうか、そういうイメージ。これはいいわ』って話になって、世の中逆風になりつつあるけど、家庭用シートは絶対調で行くんだろうと」

## シートでタイムは変わる

「シートを変えると、タイムはメッチャ変わります。ホントに身体に合ってたなら、もう運転に集中できるじゃないですか？ プロドライバーもそうしてるんだけど、インフォーマーシヨンを全身で受けることが出来るんで。」

それと剛性。『よれない』ってことでですね。クルマの性能が上がるということは、絶対スピードも上がってくるんですよ。それに合わせてGも大きくなっていくんで、どんどん剛性を上げていかないといけない。でも、強度と剛性は、ボクらの中では

違うもの。剛性とは、粘るといふ意味のことを言っている。硬いけど、粘る。ポキッといっちゃダメなんで。だから使う言葉は、剛性。そうすると、軽くするって発想は出てこないんですよ。昔のレースシーンでは、『軽くしろ』が絶対だった。でも、軽くすると剛性がなくなっちゃう。直近だと、2021年に16年ぶりにモデルチェンジした『ガイアスIII』。ウチの強さっていうのは、徹底してこだわって、もう全然妥協しない。それが走り屋さん、特にモータースポーツをやっている人から絶対的な支持を受けてます。ガイアスIIIのテストもプロドライバーの織戸くん、谷口くんにやってみてもらったけど、絶賛なんです。剛性あるし、すべてに考え尽くされた設計になって、ブリッドのフラッグシップモデルだし、ライバル他社に対して『どうだ！』と。結局、ホールド製と剛性を武器に勝てるシートを作れるんですよ。ウチは、機能重視でいくとブリッドになっちゃう。プロ好みのヤツを作っちゃうんで。そこまで手が回らないよね、ライバルさんは」

## 思い出の一脚

「いつかこんなシートを作ってみたい』って思っていたことは、1つずつ叶えられています。例えばグループCカーなんかで使っているタマゴ型のシートも作ったし（ジグIV）、フルバケがリクライニングするといいいよね』ってアイデアもすでに製品化されています（ストラディアIII）。フルバケで寝れる。これは業界初。座面もバックレストもグラスファイバー製で、それを金属でつないでいるだけ。これは多分ウチにしかできないこと。剛性も高くして、『よく作ったなあ』ってカンジ。今回は6点式ハーネスまで付けられるようにし

ちゃったんで、競技でも使えるリクライニングシートってこと。あえて言うんだったら、これが一番の製品かな。しかも、ストラディアIIからIIIになるのあたり、変更したのはリクライニング機能の追加だけじゃない。全部変わってます。フレームから微調整できるし、ガタつかないし、ウレタンも快適になった。だから疲れない。自然に座れて疲れないうシートになってます。要するにコストダウンしないでやってるんです」



2021年11月に16年ぶりのフルモデルチェンジを果たした、セミバケットシートのフラッグシップモデル「ガイアスIII」。歴戦のプロドライバーたちから賞賛を浴びる、勝てるシートの最新版だ。

「ストラディアIII」は、業界初となるリクライニングするフルバケットシートとして登場。6点式ハーネスにも対応できる本格派でありながらリクライニングもできるという、不可能を可能にした名作だ。





## スタンスとシート

THE FOUNDER

「スタンス系のクルマは見た目が勝負。だからって見た目だけよければいいって言うんじゃないで、機能がちゃんとしている上で見た目もカッコいいというモノを選ばないと。スタンスオーナーの間でも、まあまあブリッドは浸透してるんじゃないかと思うけど、でも、ウチの製品の本当のすごさを分かった上で買ってこれてるのかどうかは別。ボクの勝手な印象だけど、スタンス系のお客さんは、寝そべって運転してる？ 戦うスタイルで乗ってない？ つまり、シートを意味なく付けてるんだらうと。機能に対してこだわりがない。たまたま付けてるカンジで。あれが必要性を感じてブリッドを選ぶようになったら、シートの文化がほんまもんになると思うんだけど。」

「必要性を感じてブリッドを選ぶようになったら、シートの文化がほんまもんになると思う」

ミだどゆっくりしか伝わらないし。もちろんカッコをつけることも重要。その中でボクらは一流でいたいって気持ちがあるんで、絶対妥協しない。だから、スタンスネイションに集まるみなさんが、スタンスを文化として長続きさせようと思うのなら、機能を優先させていかなないと。カッコだけだと、単なるハヤリもの扱いになっちゃうから。

あと、カスタマイズの順番ですが、まずタイヤ&ホイールを変えて、車高調にして、ブレーキパッドを変えて、マフラーを変えてると思うけど、ボクの考えは違う。一番最初にシートを変えなきゃいけないと思ってる。シートを変えてから足を変えていくという考え。シートを変えたら、すべてのインフォメーションが身体から伝わってくるでしょ？そこを起点にしてクルマに手を入れていく。これは声を大にして伝えていかないといけない考え方だと思っています」

「スタンスシーンとシートの密な関係とは?」。こんなテーマにも深い洞察力で、愛のある話をしていただいた。今すぐでなくてもいい。いつかこの言葉がオーナーたちの胸に届く日が必ず来る。そのときスタンスは、新たなページをめくると信じて。



## シートの未来。 ブリッドの未来

「他分野への多角化はしていかないと。『クルマ以外のところでクルマの商品が売れるんだっただけいいよ』って考え方。家庭で使うって意味のことなんですけど、要するに、ブリッドのブランドを利用して何か関連するものを作ることはアリだと思うんで。あくまでも座ることからは離れ

ないように。チャイルドシートやクルマ椅子も、ひよっとしたらベビーカーも、自転車のリアシートも可能性あるし、すべてアリだなって気持ちはあります。」

もともと40年間コッコツやってきてるんで、たまたまポーンっと売れることがあっても、基本的に1人に満足してもらえなかったら後が續かないことは分かっています。お客様には、永遠顧客になってもらいたい。息子さん、お孫さんの代までつないでいく。そうやって考えるとシートビジネスっていうのは、恵まれたビジネスなんじゃないかな? フリーサイズなんで、レールさえ変えればどのクルマにも付けられるし、キャスターに付け換えれば室内でも使えるんですよ。こんなフリーな商材、ほかにない。」

目指すのは、疲れないシートを作る会社。今は疲れにくいシートを作っているけど、目指すのは疲れないシート。座っていることを忘れちゃうっていうか。そういう感覚のシートを目指していけばいい。」

イスぐらい深いものはない。1人1人感想が違うんだから。できるだけ共通のコメントがいただけるようにモノ作りはするんですけどね。で、最後にはみんな何も言わなくなっちゃう。そのときにブリッドのイスに満足できた瞬間です」



剛性、ホールド性、快適性を高次元で確立させた  
ブリッド史上最強のセミバケットシート。

ガイアスⅢ新登場!!



# GIASⅢ



ディープショルダーサポート

## GIASⅢ

¥214,500~¥275,000(税込)

- スチールフレーム
- FRP製シルバーシェル/  
スーパーアラミド製ブラックシェル
- 全3色(グラデーションロゴ/ブラック/レッド)
- 難燃生地
- スタンダードクッション/ロークッション
- 保安基準適合モデル●日本製
- FRP製重量:約14.0kg/  
スーパーアラミド製重量:約14.0kg(参考数値)

抗菌(除菌・脱臭)対応の安心仕様

車検もOK!



ハイサイドサポート

STRADIAⅢシェル形状

写真のモデルは、  
GIASⅢ(スタンダードクッション)・  
FRP製シルバーシェル・レッド(G61BMF)です。

ブリッドの最新情報は、こちら! <http://bride-jp.com>

**B**  
BRIDE SUPER SEAT  
**BRIDE** CO., LTD.  
ブリッド株式会社

〒476-0015 愛知県東海市東海町1丁目11番1号 電話.(052)689-2611 ファクス.(052)689-2612

